

うたごよみ

曾於文藝

「題字」
末吉文化協会会員
瀬戸口 淳 氏

俳句

末吉俳句会

堰を突き騒ぎて落つる大出水

池田 安起徒

兩岸に爪跡顯著大出水

中島 玉水

朱の鳥居植田の奥に神在す

宮路 生大子

大隅俳句会

つかの間の夕焼け雲や窓明り

吉川 ツミ

梅漬ける現代風の塩加減

岩重 みどり

朝顔を気ままに這はせ破れ垣に

川崎 綾子

短歌

末吉山茶花短歌会

手塩かけ育てし牛を処分せり
深き穴掘る大型シヨベルカー

福嶋 宏晴

買い物の老いの従姉はリュック
背に両手に袋さげて福祉車

小園 セツ子

戒めの言葉に生きる道しるべ
遺影見上げて「ばあさま」と呼ぶ

福宿 みち子

大隅短歌会

事故をして初めて握るハンドル
に初心忘れず安全運転

入来 レイ子

「まあ飲め」と夫の勧むる声の
して墓石清めて焼酎一献

川辺 敦子

後手を組みて思索の鴉一羽濡
れし芝生を横切りてゆく

広川 ミドリ

財部短歌会

今宵きく学友の訃報にひしひし
と静かな冷気が身をつつむ

井上 澄子

刈り込みし小さな庭に咲き残る
臍月の花は大空を見上げ

児玉 次雄

裏背戸に紫陽花の花うらぐはし
吾を呼ぶごとと藍きはめゆく

富山 治雄

吾が前をすいと一羽のつばくら
め宙返りして何処ともなく

川俣 若

下校する子らの歌声街角にわれ
も小さくハミングすなり

杉村 リカ

ゼンソクに風邪が加はり往生す
胸の痛みに専門書見入る

橋口 貞男

五月晴れ冬物衣料を片付けるナ
フタリンの香に癒され安堵す

瀬戸口 芳子

黄金の花びら広げ青春の生命か
がやく南瓜の花は

祝迫 道雄

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

何処へ行こが 氣いせん様子の
古希ん女房

田代 勝泉

様子しや紳士 飲み追っ立てば
大とか法螺

古川 一幹

狂た様子 賭博ち懸命な
相撲ん部屋

鈴木 一泉

大隅薩摩狂句会

禿頭手拭は湯槽ね落て通えつ

山田 竜生

サーピスち手拭ひとつが物を言っ

新屋 涼子

首び掛けた手拭で大汗拭ぐうせじ

太良木 五徳



やごろう西瓜